

年内収穫カーネーションの茎の軟弱化を防ぐ夏季夜冷技術

近年の温暖化により、夏季の夜間気温が上昇し、淡路島で主要な赤系スタンダード品種「エクセリア」は秋季に茎が軟らかくなり、品質面で問題となっている。夏季の終夜冷房温度が切り花の品質に及ぼす影響を検討したところ、21°C管理で茎が硬くなり、切り花の品質が向上した。

内 容

2012年7月6日に定植し、7月30日ピンチ（摘心）の2週間後の8月13日に終夜冷房処理を開始した。冷房設定温度は18、21、24°Cの3段階とし、他に無処理区（夜間平均気温26.8°C）を設けた。処理開始及び終了時刻は、それぞれ日の入りと日の出時刻（終夜）とし、処理は9月25日まで行った。秋の開花始めから年内までに収穫した切り花の長さ、重さ、茎径及び茎の下垂指数（写真）を調査した。

切り花の茎の硬さを示す指標となる茎の下垂指数は21°C区と18°C区で2以下となり、無処理区の2.5と比べ小さく、茎が硬くなった（図）。切り花長、茎径に差はみられなかったが、切り花重は21°C区が無処理区と比べて重くなった（データ省略）。

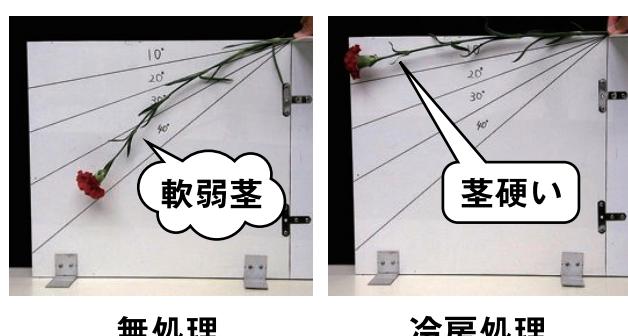


写真 切り花の硬さを示す茎の下垂指数*の測定

*切り花の先端から45cmの位置で水平に保ち、支点と花を結ぶ角度を指数化（1:10°未満、2:10~20°未満、3:20~30°未満、4:30°～）

以上の結果から、カーネーション「エクセリア」は夏季の21°Cあるいは18°Cの設定による終夜冷房により茎が硬くなり品質が向上することが判明し、秋季の秀品出荷が可能となった。また、冷房コストの面から判断して21°C設定が夏季終夜冷房に有効と考えられる。

今後の方針

今回の試験は冷房時間帯を終夜としたが、今後は経営的見地からより短時間や短期間の夜間冷房がカーネーションの品質に及ぼす効果を検討する。

東浦 優（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

本成果は農林水産省「平成24年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の成果の一部である。

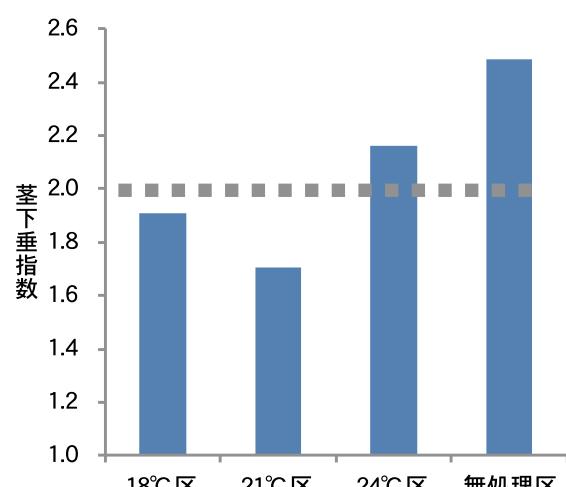


図 茎の下垂指数に及ぼす夏季終夜冷房温度の影響